

親の想い～わが子と生きる～

MINOSIEN.VOL.4 H26.1.15



息子と共に歩む

高等部保護者

「オレって、障がい者なん？」

中学１年生の頃、息子に唐突に切り出されました。

息子には自閉症と知的障がいがあります。３歳の時に診断を受けて以来、「何でこんな事にこだわるの？」といった自閉症の特性や学力、コミュニケーション等の遅れに苦勞しながらも、さまざまなサポートを受け、ゆっくりゆっくり成長してきました。

年齢が進むにつれ、「本人への告知はどうか」と気がかりになっていた頃、予期せぬ本人からの切り出しにどきりしました。周囲も思春期故、違いに容赦ないのだろうなと想像しつつ、本人の苦手を挙げて障がいがあることを話しました。当然、すぐに納得するはずありませんでしたが、それ以降、息子は自分も含めての世間の「障がい者」を意識するようになっていったと思います。

今では「自分は知的障がい者です」と云うまでになりましたが、それは障がい区分の言葉として、自分の障がいを十分に理解し受容した上での言葉ではないように思います。「自分の特性、苦手を自覚し、サポートを頼めるようになる」といった親の望むレベルまでにはまだまだです。

そんな反面、期待以上の成長を見せたところもあります。周囲に可愛いがられる心やさしい子に育った事です(親の臍目かもしれませんが・・・)。

いろいろな方からサポートを受け、心穏やかに過ごせたお陰なのだろうと感謝しています。

早期療育から始まった１５年以上になる教育課程をこの３月に卒業します。一番近くで、長時間サポートしていただいた学校を離れ、その大部分が家庭に戻ってきます。

息子の生き辛さと真摯に向き合っていく覚悟を新たにしました。